

ナイス

6月号
vol. 112

巻頭特集

ナイス
隣保館

「シンメトリーな光景」
南海電鉄汐見橋線 西天下茶屋駅付近

おとなりさん 隣保館

おとなりさん ③ すみよし隣保館 寿

大阪市住吉区にある「すみよし隣保館 寿」を訪れた。南海高野線「住吉東駅」または阪堺線「神木駅」を下車して徒歩2、3分という非常に交通至便な場所にある。住吉大社や住吉公園も近い。『なび』の取材陣を案内してくれたのは、住吉地区を誇りにもち、若くして部落解放同盟大阪府連合会住吉支部の支部長を務める友永健吾（ともながけんご）さんであった。

すみよし隣保館 寿（正式には「住吉隣保事業推進センター」。以下「隣保館」と呼ぶ。）は2016年4月1日に民設・民営隣保館としてオープンした。隣保館を建設した地には元々「寿湯」という銭湯があった。住吉人権協会による経営廃止後も、ボランティアなどで運営をまかっていたが、一昨年廃業した。その跡地の利用をめぐる住民との協議を重ねながら今回の建設にまで至ったそうである。建物は3階建てになっており、1階には、隣保館を運営する公益財団法人住吉隣保事業推進協会、住吉区北包括支援センター、解放同盟住吉支部と地元の自治会と老人会の事務所と交流スペースがあり、2階には、地元の医療法人が運営する訪

問看護ステーションや居宅介護支援事業所がある。そして3階は貸室となる大・小の会議室があり、図書・資料室や倉庫も備えている。

まちの歴史を 後世へ伝える

建物に入るとまず目に飛び込んでくるのは、ホール中央の壁に掲げられた御影石。水平社宣言が彫られている。

住吉解放会館（1977年設立）の初代館長・住田利雄さんの直筆をもとに製作された碑文を、新設の隣保館に移設したそう。また、エレベーター前の壁には彫刻家・金城実さん作のミニチュメントの荊冠が飾られていた。これらは部落の歴史を語る象徴であり、これを飾ることが住吉の大きなコンセプトかもしれないと友永さんは語る。官製の部落史ではなく、住吉部落の真の姿を、将来を担う子どもたちに伝えていくツールにしたいと思っている。来館した子どもたちから「これ何？」と聞かれることもあり、その都度丁寧に説明をしているそう。実際に地区内の小・中学校と連携して同和・

昨年12月にオープンした「スマイル ゆくとあい」は西成発の民営隣保館。それはセトルメントに由来し、貧困・孤立・差別、排除など複合的・重層的な課題を抱えた住民に寄り添いながら、これらの困難に取り組む隣保事業を行ってきた。このような拠点施設が減少しつつある昨今、『なび』は大阪府内をはじめ全国の隣保館ルネサンス活動に励む「おとなりさん」を訪ね、ええとこ取りをしています。

おとなりさんプロジェクト
飯島・西田・若松・佐々木



（左）隣保館の屋上から住吉東駅を臨む（中上）1階交流・キッチンスペース（中下）3階図書室（右）外観



(左) 彫刻家・金城実さん作のモニュメントの荊冠が飾られている (右) 住吉解放会館から隣保館に移設された水平社宣言の全文

人権教育には力をいれているとのこと。

3階に上がると廊下には、住吉の日常生活で連綿と使われてきた仕事道具や民具類、例えば下駄、ぞうりなどの履物や、天秤棒、ザル、鬼瓦、斧、包丁、バリカン、小物入れなどが展示されている。また、壁には住吉の町並みや生活風景の写真が掛けられていて、過去と現在の様子が比較できるように工夫されている。そして、同階にある倉庫には展示品の他に貴重な写真や資料、地域の盆踊りなどに使われる太鼓などが大切に保管されている。このように歴史資料を大事に残し、後世に伝えていく努力をしていることも、友永さんのいう住吉へのこだわりからであろう。友永さんも自分の生まれ育った住吉のまちに誇りをもっている。それは識字教室に通うおばちゃんから教えてもらった。「大きな部落史ではなく、誰のための歴史であつたのかを考えることが大切だ」と思っている。同時にそこに暮らす人たちに焦点を当てることに興味を持つことができた」と友永さんは語る。

地域住民のための隣保館

住吉地区は約500世帯あり、およそ1、

多い。施設運営の持続可能性である。大・小会議室、図書スペース、キッチンスペースを貸室としてたくさんの人に利用してもらうことや新たな事業を展開していくことが求められる。貸室は、開館以来4割ぐらいの稼働率だが、今後6割以上にしていきたいと考えており、他の隣保館を参考にしつつも自分たち独自のスタイルで新たな事業を展開していきたいと友永さんは語る。

人権とまちづくりの新たな課題

公的に開かれた地区の情報があるにもかかわらず、インターネット上での地名情報や部落地名総鑑の復刻版なども発行されようとしている。しかも発行元の人たちは、「自分たちでも発信しているじゃないか、それを私たちが発信してなぜ悪い」と開き直りの姿勢をみせている。そんなことについても友永さんの意見を聞いてみた。「問題なのは、発信の意図が明らかな悪意によるものであり、尚且つお金儲けであること。これは差別性を核にしている悪質な人権侵害だと発行元に対抗していかなければ

いけない」と友永さんは口調を強めた。

その一方で地区内でも今後、新たな問題が起こりえることを友永さんは危惧している。地区住民の中に「もうそんなにここが被差別部落と言わんでいいやん」という人が増えてきた時に、住吉支部としてどのように説明して住民たちに納得してもらうかである。家ができることで、まちが変わり人も変わる。そんな中で自分たちのまちを誇りに思いどんなまちづくりを今後進めていくのが、住吉地区の近々の課題だと教えてくれた。

文責…西田吉志



友永健吾さん



下駄、草履、天秤棒、斧、包丁など、日常生活で使われていた民具や仕事道具が展示されている

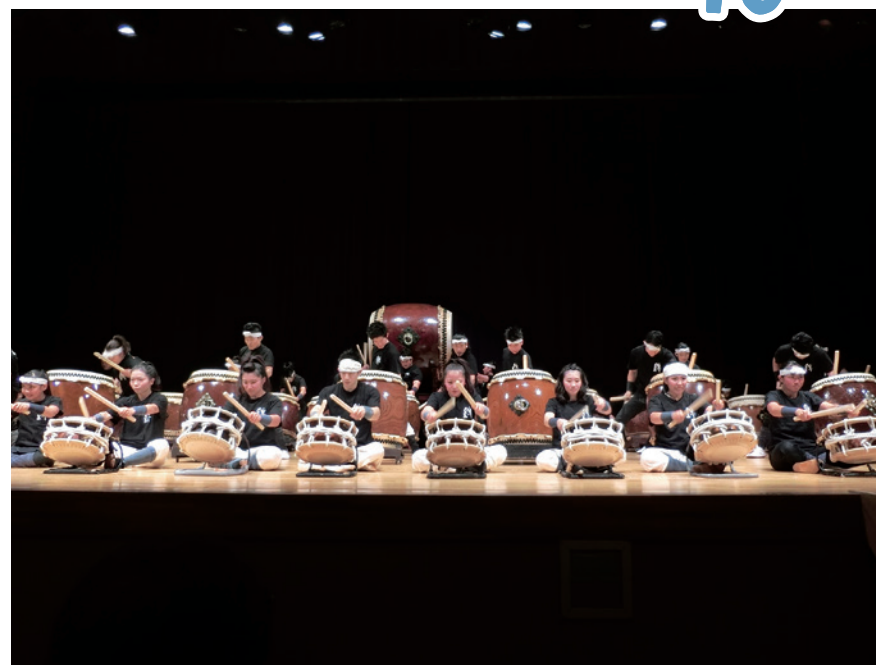


きんこん がこん

ver.1.1

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない！小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

12時間目：こども太鼓サークル「輝」
しかり



太鼓集団「怒」の舞台

結成のきっかけ

「子どもの居場所をつくりたい…」といった子育て支援者の思いと、太鼓が大好きな大学生との出会いがきっかけとなり、この太鼓サークルが結成されました。以前、このコーナーで紹介した「よみかき日本語教室」「マナビバ！」や「にしなり☆こども食堂」など、西成区北西部には子どもたちの居場所となっている活動がいくつかあります。今回紹介する子どもサークル「輝」も太鼓の練習を通して、小学生から中学生の居場所となつていきます。もともとは、市民交流センターになりで助成金を活用した「こども太鼓教室」として2015年6月から実施されました。市民交流センターにしなりが3月末に閉鎖された後は場所を長橋小学校に変えて、生涯学習の取り組みとして継続して活動しています。

当初は5名ほどで練習をしていましたが、口コミで徐々に参加者が増え、現在は毎回10名程度になっているそうです。いま参加している子どもたちは小学3年から中学3

太鼓好きな指導者

年ですが、特に年齢制限は設けていないので、子どもの母親や現役の中学校教師など大人と一緒に練習に参加しています。

今回、お話を聞くまでは「太鼓」を簡単に考えていましたが、宮太鼓、締太鼓など、大きざや演奏方法によって太鼓に種類があることを今回初めて知りました。「輝」では宮太鼓、締太鼓を使い練習を重ねています。昨年度は市民交流センターの「こども秋祭り」などで練習の成果を発表したとのこと。



指導者の寺島さん

「輝」の練習を指導しているのは、浪速の太鼓集団「怒」の現役メンバーの寺島史視さんです。西成のお隣さんである浪速も古くから皮革産業が盛んで、特に太鼓づくりにつては「太鼓の町・浪速」と呼ばれるほど、太鼓づくりが盛んな町です。太鼓集団「怒」は地域の伝統産業・文化を広く伝え、「太鼓の音が響きわたる町に」といった願いから地域の青年たちが中心に30年ほど前から活動されています。現在、寺島さんは大学生で、2人の姉の影響で小学1年から太鼓を続けて、現在は「怒」に所属されています。

寺島さんは、松之宮小学校の太鼓活動である「絆」の指導もされています。こちらは生涯学習ルームでの活動となっており、保護者、中学生、大人、小学生親子を対象としています。寺島さんに「輝」の活動について質問をすると、「子どもの数を増やして、太鼓を好きになってくれたら…」とのことでした。指導者の太鼓への熱い思いを感じました。

活動について

活動の場所や時間は次の通り。今年度は



練習風景（長橋小学校）

練習以外にも、地域の盆踊りや他の太鼓団体の発表会への参加などを予定しているそうです。

場所…長橋小学校（西成区長橋2-3-21）
日時…毎週土曜日、午後7時～8時ごろ
問い合わせ先…06-65661-8801
担当…川辺

レポート…沖田一志
寺嶋公典

〔寺嶋公典〕遠方での新しい生活に慣れた三女がアルバイトをすると連絡があった。「モスバーガーに行くことにした」と聞いたが、よく聞いてみると、まずは食べに行くとのこと…。

〔沖田一志〕iPhone が世の中に登場する以前のスマホを知っていますか？いくつかメーカーがあって、ボクは Nokia を愛用していました。少ない情報を集めて試行錯誤していたのが懐かしいです。

地域にうっていくで「太鼓サークル輝」！

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

一般社団法人エル・チャレンジ
L's College おおさか
エルズカレッジ



5月号ではL's College おおさかのオープンまでの道のりを紹介し、『働くための訓練ではなく、豊かな人生を送るための学びに挑戦していること』をお伝えしました。6月号では辻校長に再び登場いただき、学校生活やカリキュラムについてご紹介いただきます。



L's College おおさかが大切にしている6つのこと

L's College おおさかが目指すものは、知識を積み上げるのではなく、『生きるための力』、生活に必要な学力を身につける』ということです。小・中・高等学校の12年間の学びを振り返りながら、「豊かな人生を送るために必要な力を育むこと」と「発達に遅れがあるからこそ、今、必要な学びを提供すること」を大切にしています。具体的に6つの視点をもちながらカリキュラムなどを提供しています。

①生活を豊かにする学び

知識を生活と結びつけて学習しています。教科名には「数学・国語」ではなく、「生活数学・コミュニケーション国語」と名付けたり、テレビの大河ドラマを取り上げた生活社会など、自分たちが生活している身近な内容を取り上げて知識と結び付けていくスタイルです。

②自ら考え行動する力

生徒会活動を重視しています。会長や副会長は



(左上) 数学の授業 (左下) 阿倍野防災センターでの地震体験 (中上) プール学習 (中下) 朝日新聞社見学 (右) 調理実習

選挙で選んだり、体験学習や修学旅行などは生徒会議によって決定したり、学校の運営の一部を生徒会に託し、実践の中で自ら考えて行動する力を身に付けていくスタイルです。

③個に応じた学習

小規模なグループでも学習しています。統一的なクラス学習だけではなく、小規模な学習グループを編成しています。集団の中では見過ごされがちな、個々の生徒の力や特性を引き出すスタイルです。

④充実したキャンパスライフ

月に数回の体験型学習を取り入れています。図書館での学習や博物館・ミュージアム・美術館など、学校を飛び出した多くの体験を通じて、教室での学習と社会を結び付けるスタイルです。

⑤家庭との連携

学校と家庭のパートナーシップ

あたりまえの学びを2年目を迎えて

⑥卒業後の進路
2年間ではなく4年間を意識しています。L's College おおさかは4年間の学習期間を想定しています。2年間の自立訓練期間が終了した後、もう2年間の学習の場を現在計画中です。大学と同じ4年間の学びで、意識を持って社会に臨んでもらうスタイルです。

第2回の入学式は、在校生の8名が分担してすべてを運営しました。司会はもちろん、生徒紹介、来賓紹介、祝電披露、生徒会長挨拶など、1年間の学習の手がかりや成長を見せながら、なし遂げました。

まだ1年しか経過していませんが、「不登校

だった生徒が、職員に励まされて1年間休まず登校できたこと」「友だちに感情をぶつけてしまうことが多かった生徒が、自分の行動を少し振り返ることができるようになったこと」「苦手な学習に消極的だった生徒が、試験をきっかけに自分から学習する意欲をもったこと」「学びへの意欲が、安定した人づきあい」に発展したこと」「全員が必要な休み以外は休まずに通学できたこと」「学校の休みを残念がる生徒」などなど、成長の姿は数え上げればきりがありません。

『学ぶことは楽しい』『人は学ぶことによって成長していく』ということを私たちに改めて教えてくれました。L's College おおさかの取り組みは始まったばかりですが、障がいの有無に関係なく、学ぶことの大切さを発信し続けていきたいと思っています。

文責…辻 行雄

L's College(エルズ カレッジ) おおさか

大阪市浪速区本津川2-3-8 A`ワーク創造館1階
☎ 06-6561-7730 FAX:06-6561-7733
Mail:lcinfo@l-challenge.com
http://l-challenge.or.jp/l-s-college/osaka/



〔谷口円〕百貨店の社員食堂で昼食を食べる機会があったのですが、同じ空間に様々な年代の様々なコミュニティの人達が集まってご飯を食べている様子がとても面白かったです。



〔田岡秀朋〕GWに子どもとサッカーをしていたら、芝生に足を取られ左ひざに異変が。いきなり体を動かすとちよつとしたケガが増えてきた。まだまだ遊ぶためにも、準備運動をちゃんとしよう。

障害者差別解消法が4月に施行されたのに続き、ヘイトスピーチ対策法、部落差別解消法、LGBT（性的少数者）対策法、高齢者年齢差別対策法等、多様な人権法案が議論されている。婚外子差別に係る民法規定違憲判決や、ハンセン病隔離法廷最高裁謝罪もあり、発生から60年を迎え水俣病差別も見直されている。ボクは、フリースクール（不登校等児童支援）法も一種の人権法になるかもと期待してきた。同一労働同一賃金の議論も広く人権に係っているとも言える。ともあれ、これだけの「人権法案」が一堂に議論されることは珍しい。

内容に問題がないわけでもないし、成立に辿り着くかの懸念もある。例えば、部落差別解消法は、「部落」という冠語がなければ何の差別なのかわからない「能面な」理念法に見え、せめて「審議会」設置等付帯決議で補完してほしいと願う。フリースクール法は、学習支援計画の可否によって義務教育課程に算入するという肝の部分で、与党側は「かえって不登校を助長する」からと削除する意向で、これでは不登校児童も「福祉の対象」と矮小化されそうである。「LGBT法」は、稲田朋美自民党政調会長が「多様性を認める」と踏み込んだが、与党内には頑迷な反対論が根強いようで、成立の

ハードルは高そうだ。振り返って、過日の大阪市ヘイト条例可決の際、橋下前市長提案にあった「被害者の訴訟費用の公費負担」という骨のある原案が削除されたのは、いかにも残念だった。ボクには、ヘイト条例がやっとなりたというより、「大きな魚を逃がした」感が残った。この大阪市の条例の攻防が、そのまま国政に引き継がれてしまい、「（この政治状況では）一歩前進」、はたまた「この機を逃がしたら」の圧力が、人権法案を骨抜きにしてしまいうような懸念がある。

橋下さんの最後つ屁みたいなのは、提案はもう一つあった。憲法の「義務教育」を「教育の無償化」に変えるというのだ。呼応するよううに吉村後継大阪市長が「5歳児教育費無償化」を提唱し、ボクは、フリースクールの義務教育算入の論拠もこれだと、思わず膝を叩いたが、あからさまな「改憲との引き換え」に強い危惧も感じた。橋下さんは、歯に衣着せぬ人だが、安倍さんは違う。でも、どちらも

（株）ナイス代表取締役
富田 一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

人権法を改憲に絡めとられないように

いい湯かげん

hidarimaki

ぼの細道



桜の力はやはりすごい。駄句がたまりました。季節は夏。なびは発行時間差のため春一色です。

中空にもくもくもくと桜湧く
花一樹満開ならば名所なり
桜散り積もる夜道が発光す

花びらがこの地までとぶ街ひろい
フェスティバルのライブにて
春宵にディラン枯葉を歌いたる
鳩むくろちり花たちが野辺おくり

今月の花:ダリア

花言葉「華麗」「優雅」
「気品」「移り気」

原産国はブラジルです。日本では江戸時代にもちこまれました。日本名は牡丹に似ているので、天竺ボタンといひます。私の一番好きな花です。



またまた、結核が流行っています。お店に遊びに来る人が、続けて2人もかかりました。そのたびに私も不安になります。いつも仲良く話す人の4人が、もうかかってしまいました。「これは西成らしきなんかなあ？」って思っています。私が住んでいる所で聞いたことがないのです。早くよくなって元気になって遊びに来てください。（なんびとみ）

たの 3くふうたま



同じアパートに住む、ある「お母さん」の話。老人ホームで過ごす旦那さんが心配。自身の体にも気遣いながら、いつもそばに寄りそい「これから一緒にだね」とこやかに。（安田拓也）

時間を感じる

アパートの玄関扉をぐっと開き、背丈ほどある木製の下駄箱に靴をしまい、日々磨かれた階段を上った真正面の一室、6畳2間。

5月の長期休暇は、久しぶりに実家へ戻り、手土産に、母の日に、兄弟の誕生日にと、結構な手荷物になった。子どもの日には、先輩の結婚式に招待いただき、大阪湾を眺めながら、感激の披露宴に幕をとした。少々いやらしい話、どちらも行きの出費はすごかったが、帰りの荷物が増えたのは、なんともありがたい。

ある日、朝からまちをぶらりと歩きながら、ご近所さんと挨拶を交わしアパートに戻ると、玄関先に、眩しいほどのツツジが咲き誇っていた。大家さんの先代が亡くなってから30年間、この場所でみんなを見守る。

まちも人も、進む早さや方向で、その表情が変わってゆくのは面白い。



【若松司】なんだか忘れられないマンガのセリフ第2弾。「スティーブルラン」(『ジョジョの奇妙な冒険』第7部)より敵役の辞世の言葉——「ようこそ、男の世界へ」



【西田吉志】1歳7ヵ月になる子どもと毎日お風呂に入る。最近、頭を洗われるのを嫌がる。顔に水がかからないよう、おもちゃで遊びながら、シャンプーハットを試してみたり、他に良い手はないかな。

なび6月号(vol.112)
発行日:2016年6月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
発行人:代表取締役 富田一幸

住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典
編集:飯島照章、沖田一志、佐々木敬明、田岡秀朋、西田吉志、安田拓也、
若松司(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円 印刷:有限会社前山金広

にきび 飯ユラン メシ

3軒目

『Suntruk』



ドアを開けると真ん中にカウンターがコの字型に、その周りに椅子、奥にはテーブル席、壁面には時計があちこちに、バーでも、パブでもない、実に不思議な空間、酒場である。カウンター内には女性が、「何になさいますか」「...」。「ええ~と、ジンフィーズ(そうそうジンフィーズは簡単なようで難しく、またバーテ

ンダーの特徴がよくわかると、今はもうないがホテルプラザのマルコポーロのバーテンダーが言っていた)。シェイクするのはオーナーの林さん。なかなかの味、酸味を少し抑えた野性味のある

ジンフィーズだ。大阪市内の他店で見習い修業し、製靴業の実家手伝いつつ、夜はバーテンダーとして店を経営している。カウンターという板1枚の無駄のない洗練された空間のなか、シェイクの音、バーテンダーとの会話、ちょっといい気分になれる、その日の楽しいこと、嫌なこと、悲しいことなど、みんなシェイクし、「明日があるさ」というカクテルもそっと出してくれる、そんな“酒の場”である。

Suntruk

場所:西成区中開2丁目1-33-101

電話:080-3814-7090

営業時間:18:00~24:00(水・祝日休)



あとがき

熊本大震災。被災者が多数、家屋の全壊、半壊などの損害も多数出て、しかも余震はいまだに続いています。阪神淡路大震災を経験した私としても他人事とも思えない心境です。私の友人も熊本県内に居住しており、無事であることは確認しましたが、心配な日々が続きます。遠くからエールを送るだけしかできませんが、無理はしないで、と願うばかりです。

(飯島)